

声 Voice

児童死傷 行政の不作为が主因

無職 村上 達也

(茨城県 78)

千葉県八街市の児童死傷事故は、やりきれない。現場写真を見て寒気がした。歩道も、歩行者を車から守るものも、何もない。新聞の論調は行政に対し、微温的ではないか。飲酒運転は許せないが、県と市の行政の不作为も責めたい。市も学校も危険性を承知しながら、何の策も講じず通学路に指定していた。これが悲劇の主因であると思う。

市も市教委も2016年に「通学路交通安全プログラム」を定めていたというが、12年の京都府亀岡市の事故から9年あまり経っても、この

通学路では何もなされていない。これが事実だ。根底には、行政にも住民にも「道は地域発展の象徴」という戦後的・発展途上国的な価値観がある。私は8年前まで16年間、茨城県東海村長として、「道は車中心から人中心に」と、村民や役場職員意識転換に腐心し、全学校の通学路に安全対策を講じた。歩道の拡幅・新設では、あえて車道を狭めることもいとわなかった。

私たちが効率性、利便性を求める価値観を捨てない限り不幸はなくなる。命を落とした子どもの靈にこたえるには、車の往来を止めてでも通学路の安全を誓うべきである。